

インフラとして優れた Google Apps for Business。 しかしその真のメリットは業務改善と スタッフ間のコミュニケーションの活性化。

オイシックス株式会社 システム本部 システム部 米島和広さん



事業概要

オイシックス株式会社

オイシックス株式会社 (代表: 高島宏平) は、「子どもに安心して食べさせられる食材」をコンセプトに、有機・特別栽培野菜、無添加加工食品など多様な食材と豊かで楽しい食生活に役立つ情報をオンラインサイト「O i s i x (おいしくす)」(<http://www.oisix.com/>) およびオフライン (牛乳宅配店など) 経由で提供する事業を 2000 年 6 月より行なっている。

また、2010 年 11 月から初の店舗事業を開始し、現在は恵比寿三越と二子玉川東急フードショーの 2 店舗を展開。

導入パートナー (Google Apps 正規販売代理店)

株式会社電算システム

2006 年より Google 製品に注力。Google Apps の導入・運用サポートのための豊富な知識、安定した支援と技術力で定評あり。

<http://www.web-dsk.net/google/>

Google Apps について

Google Apps for Business は、クラウドの価値を実感できる、画期的なホスティング型オフィス スイート。1 人 25 GB の大容量メール ボックス、会議への招集も簡単なカレンダー、1 つのドキュメントをオンラインで共有しながらのレビュー、誰でも簡単に立ち上げられるサイト、急ぎの用件や確認に便利なチャット、円滑なリモート ワークを実現するビデオ通話、動画の投稿や共有、そして強力無比の検索などなど。Google Apps for Business には、社内情報を共有・管理し、最大限に活用するさまざまな機能がセットされています。しかも、費用は 1 ユーザーあたり年間 6000 円。IT 部門の管理者は、サーバー需要の増加、メンテナンス作業、セキュリティ対策などに悩む必要もありません。

詳細は、<http://www.google.co.jp/a>まで

*すべての企業名及び製品名は、該当する企業の商標または登録商標です。

導入前の状況と課題

順調に伸びる事業に伴うスタッフの増加、そしてメール サーバーのパフォーマンス低下

弊社は設立 13 年目となりますが、おかげさまで、早いスピードで事業規模を拡大しております。これに伴い、自社でメールサーバーを構築・運用することによる管理やメンテナンスのコスト、特にウイルス対策ソフトのコストが膨れ上がってきていました。また、これまではメール アプリに加えてウェブ メールも使っていたのですが、自分のパソコンでしか確認できなかったり、ウェブメールの反応が遅かったりと、いくつかの問題を抱えていました。時を同じくして、サーバーのリプレース タイミングでもあったので、これを機に、メールシステムを社内サーバーから Google Apps for Business に移行しました。

導入の経緯

インフラとしての導入決定、そして業務改善への無限の可能性

私が所属するシステム本部では、業務システムの構築・運用だけでなく、業務改善の責任も負っています。最初はメールシステムを Google Apps for Business に移行することだけを考えていましたが、そんな折、Google のセミナーに参加させていただく機会や、Google 社内で Google Apps for Business がどのような使われ方をしているのかを拝見する機会があり、メール (Gmail) 以外の機能も使えるのではないかと考えるようになりました。メールやカレンダー、そしてクラウドストレージである Google ドライブやオフィス ツールに至るまでの様々な機能が使えるにもかかわらず低料金で、これらのアプリをうまく使えばコミュニケーションの促進にも利用できると考えたのです。つまり、移行・導入を考えたのは自社のメールサーバーのパフォーマンスとリプレース タイミングでしたが、決め手はコストパフォーマンス、そしてなによりも、共有と連携が考慮された Google Apps for Business の様々なアプリを使うことにより、社員のパフォーマンス改善につながるであろうという確信と期待感でした。また、ワークフローのクラウドアプリを利用することが決まっていたのですが、Google の ID をこれら他のアプリと連携してユーザー管理ができるのも Google Apps for Business の大きな魅力の一つです。そして、弊社のセキュリティポリシーも問題なく満たしていましたので、導入を決定しました。

導入後の効用

共有と新しいドキュメンテーションのスタイル、そしてコミュニケーションの活性化

Google Apps for Business の導入は、IT リテラシーを考慮して、段階的に行いました。まずは IT 部門と希望者、その後コールセンター以外の全ての部署に導入し、最後にコールセンターに導入しました。現在、弊社では社員とパートをあわせて、400 程度のアカウントで運用をしています。また前にも触れたとおり、スタッフは増え続けていますが、アカウントの追加が楽なもの Google Apps for Business の良いところ。Google Apps for Business の操作方法はシンプルでリテラシーに関係なく使うことができるため、目立った混乱もありません。

現在主に使っている機能は、Gmail とカレンダー、そしてドキュメントとドライブです。メールは場所を選ばずにスキマ時間で確認することができ、そして商品開発や調達状況等もタイムリーに把握することができるようになったため、朝出勤してからメールや状況確認のために時間を割く、という煩わしさから開放されました。このため、スタッフの始動開始が早くなったような気がします。また大きな生産性の向上として、ドキュメントの共有機能があります。これまでは、共有はできて同時に編集をすることはできなかったため、どうしてもドキュメントがある程度完成してから共有する必要がありました。しかし Google Apps for Business は同時編集も可能な共有機能を備えており、一つのドキュメントを複数人で完成させる流れを可能にします。つまり、これまでは「1 人が作ってから共有」していたものが、Google Apps for Business により「共有してから皆で作る」という新しいドキュメンテーションのスタイルが実現しました。

Google Apps for Business を最大限に活用するための試行錯誤も続いています。今後は Google Apps for Business を使うメリットを更に引き出したいと考えています。例えば、社内の生産性向上のために、Google+ やハンガアウトを積極的に活用することもその一つです。全スタッフ間での情報やビジュアルの共有、そして今人事部と協力して行おうと考えているのは、社員プロフィールや顔写真を掲載して、全社的なコミュニケーションを促進させようという試みです。また、Google Apps for Business は様々なアプリのスイートであり、各アプリのメリットを把握しつつ共有や連携を考慮して、社内の生産性を向上させるために最大限に活用するためには、IT チームとして Google Apps for Business の用途を提案していくことも重要だと考えています。そこで、部署ごとにインタビューを行い、その活用方法をイントラネットに流すなど、常に新しい利用方法の提案もしていきたいと考えています。

さらに今後は、社内コミュニケーションに役立てるだけでなく、Google Apps for Business を社外やエンドユーザーとのコミュニケーションにも役立てていきたいと考えています。